

式 辞（定時制）

校門の横にある桜の木が、今年も見事に花を咲かせました。満開の桜が春の光に照られ、やさしく揺れる姿は、これから新たに一歩を踏み出す皆さんを祝福しているかのようです。皆さん胸にあるさまざまな思いや決意に、桜が静かに寄り添ってくれている——そんな気がいたします。

本日は、PTA 会長 周藤智恵子様をお迎えし、令和七年度 桐生市立商業高等学校 定時制課程の入学式を、ここに挙行できますことを、教職員一同、心より感謝申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました7名の新入生の皆さん、ようこそ桐商へ。皆さんのご入学を、私たちは心からうれしく思っています。

ます。また、今日まで皆さんを支えてこられたご家族や周囲の方々にも、心よりお祝いと感謝を申し上げます。

本校の定時制課程には、さまざまな背景をもつ生徒の皆さんのが在籍しています。

中学校を卒業してすぐに進学された方、外国籍を有する方、一度は高校を離れたものの、もう一度学び直すことを決意された方、そして時間をかけてじっくりとこの道を選ばれた方——その歩みは一人ひとり異なります。

まさにその多様な歩みこそが、本校定時制課程の大きな魅力であり、かけがえのない価値です。

皆さんに共通しているのは、「学びを続けたいと強く願っている」ということです。この桐商での四年間が、そんな皆さんのはい

に応える、あたたかく、誠実な時間となるよう、私たち教職員は力を尽くしてまいります。

ここで過ごす四年間は、決して一人ではありません。クラスの仲間、先輩方、そして教職員が、皆さんを支え、見守っています。時には不安や困難に直面することもあるかもしれませんのが、どうか自分のペースで、一步一歩進んでください。どんなに小さな一步でも、それは確かな前進です。

この高校生活で、私が皆さんにぜひ身につけてほしいのは、「自ら考え、判断し、行動する力」です。社会は今、大きく変化し続けています。正解が一つではなく、前例のない課題に向き合うことも増えています。そんな時代を生き抜くには、「自分で問いを立てる力」が欠かせません。

少人数で学ぶ定時制では、一人ひとりが

主役です。授業でも行事でも、「誰かがやるだろう」ではなく、「自分がやつてみよう」という気持ちを大切にしてください。「自分には関係ない」ではなく、「自分にできることは何か」と問い合わせる姿勢が、皆さんのが来を大きく切り拓いていきます。

もちろん、思うようにいかない日や、疲れてしまう日もあるでしょう。でも、それでも「やってみよう」と思える気持ちを持続してください。自分で選び、自ら挑戦した結果であれば、たとえ失敗しても、そのすべてが大切な学びとなります。

ここで、今年の初めに放送されたTBS日曜劇場『御上先生』の中から、印象的なセリフをご紹介します。教育に向き合う教師の姿を描いたこのドラマで、主人公の御上先生が生徒たちに語りかける場面があります。

「考へても、考へても答への出せない問題は、この世にたくさんある。でも考へ続けること。答へが出ない問題を投げ出さずに考え続けること——その力そのものが、『考へる力』だ。考へて。」

これは、まさに今の皆さんに必要な力です。答へが見つからないと、いつて思考を止めるのではなく、問い合わせ、模索し続ける。そんな姿勢こそが、「学ぶこと」の本質です。

私たち教職員は、皆さん一人ひとりの声に耳を傾け、日々の変化に気を配りながら、心をこめて支えてまいります。どうか安心して、自分らしく学んでください。

保護者の皆様、ご家族の皆様には、今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。学校と家庭が連携し、生徒を共に見守つていいくことが、何よりも力強

い支えとなります。

新入生の皆さん。今日から始まる四年間は、自分の未来を自分の手でつくる時間です。焦らず、だれかと比べず、自分のリズムで進んでください。そして、満開の桜のように、やがて自分らしい花を咲かせられるよう、日々を大切に過ごしてほしいと願っています。

皆さんにとつて、この桐商での時間が、かけがえのないものになりますように。さあ、一緒に「最高の四年間」にしていきましょう。

最後に、PTA 会長 周藤智恵子様をはじめ、ご家族の皆様に心より感謝申し上げ、式辞といたします。

令和七年四月八日

桐生市立商業高等学校

校長 星野

亨